

凡例.....vii

解説.....一

『十上經』解題.....三

『增一經』解題.....三

『三聚經』解題.....一六

『大緣方便經』解題.....一八

『釈提桓因問經』解題.....二五

本文.....三五

十上經 本文.....三七

增一經 本文.....七五

三聚經 本文.....九一

大緣方便經 本文.....一〇一

釈提桓因問經 本文.....一三三

注	一五五
十上經 注	一五七
増一經 注	二二七
三聚經 注	二四三
大縁方便經 注	二四七
釈提桓因問經 注	二七一
分担・初出一覧	三〇八
『長阿含經』構成表	三〇九
訳注者一覧	三二〇

凡例

- 一——本シリーズは全六巻で、『長阿含經』二二卷三〇經について、それぞれ解題・現代日本語訳・原文・注を収める。第3巻は『十上經』、『増一經』、『三聚經』、『大縁方便經』、『釈提桓因問經』を収めた。本シリーズ全体の意図や方針については、第1巻のはしがきを参照されたい。また、『長阿含經』全体については、第1巻の解説に記した。
- 二——底本としては、高麗大藏經所収本（韓国東国大学校影印版、第一七卷）を用いた。校本としては、『大正新脩大藏經』第一巻所収本の校注に収められた宋・元・明三本、及び磧砂藏本（台湾新文豊出版影印版、第一七卷）を用いた。底本の文字を改めた場合は、本文に*を付し、注にその旨を記した。なお、参考までに、本文欄外に大正藏本の頁・段を注記した。
- 三——訳文は、訳者によって相違するところがあり、必ずしも無理に統一を図らなかつた。しかし、同一經典内では、主要な用語に関して可能な範囲で統一を付けるようにした。
- 四——注においては、必要に応じて略号を用いた。

(1)——全体に関する主要な略号は以下の通り。

赤沼『固有名詞辞典』 赤沼智善編『印度仏教固有名詞辞典』 法藏館